

2027年問題をチャンスに変えるERP拡張基盤

ERP導入の課題を解決する方法



はじめに - ビジネスとERPの密接な関係 -

現代では多くの企業がERPを導入しており、ビジネスの最適化を推進・維持するために活用しています。

現場レベルの改善施策から経営判断にも使われるERPは、自社の商流や業務フローにマッチした機能を備え、快適に操作できると理想的です。一方、主流のERP製品は主に海外企業によって開発・販売されており、日本の商習慣にマッチしないケースが少なくありません。

そのため独自で追加開発をしたり、あるいは業務フローをERPの仕様に適合するよう変更する必要があるのが実情です。

さらに、近年ではSAP社の「SAP ERP 6.0」保守サポートが2027年末で終了することに起因する「2027年問題」へ対応するべく、これを機にERPの刷新を検討している企業も少なくありません。

そこで注目されているのが、ERPと連携した外部アプリケーションを開発可能なERP拡張基盤です。自社にとってベストな機能や操作性を備えたERPを構築したいという企業がERP拡張基盤を導入し始めています。

この資料では、**ERPを取り巻く実情や課題へのアプローチ方法、本質的な課題解決を狙うERP拡張基盤の概要**を事例と併せて紹介します。参考になりますと幸いです。

CONTENTS

- P02 はじめに—ビジネスとERPの密接な関係—
- P03 ERPを「こういうもの」と諦めていませんか？
- P04 ERPの課題に対する一般的なアプローチ
- P05 intra-martのERP拡張基盤が課題を根本から解決できる理由
- P06 ERP拡張基盤の効果を最大化する3つのポイント



ERPを「こういうもの」と諦めていませんか？

ERPを導入している企業であれば、その必要性や価値は十分に理解しているでしょう。

しかし、海外製のERPパッケージを導入して課題を感じていながらも、「こうあって当然」と受け入れてしまっている問題点もあるのではないでしょうか？

「こうあって当然」と思ってしまうERPの問題点の例

複雑なUI



- ・直感的に操作できない
- ・よく使う機能の階層が深い

業務単位で感じる使い勝手の悪さ



- ・ERPの仕様に合わせるための作業が発生する
- ・Fit to Standard※で対応することが難しい

商習慣にマッチしない



- ・税制が変わったのに対応されない
- ・標準機能では対応できない業務がある

※ Fit to Standard…業務内容をERPの機能に合わせること

ERPの問題を「こういうもの」と受け入れるのではなく、**企業の成長を支えていくための改善が必要**

ERPの課題に対する一般的なアプローチ

ERPを自社にとって使いやすいシステムにするためには、UI開発・アドオン開発を行う、業務フローをERP仕様に合わせるといった方法が一般的です。しかし、これらの手法には大幅な開発工数がかかる、複数ツールとの連携が必要などの問題点もあり、ERPを最適化できずにいる企業も少なくありません。

一般的なERP問題解決の方法

UIや画面構成の開発



アドオン開発



業務内容をERPの仕様に合わせる



これらのアプローチにより、自社ビジネスでERPを実用できる状態になる一方、新たな問題も生じる…

一般的なERP問題解決の方法による新たな課題

業務をERPに合わせようとしても既存業務プロセスを変えにくい



- ・商習慣の違い
- ・システムと実業務のギャップ

自社業務にERPを合わせるためのコスト



- ・システム開発コスト
- ・調整や管理に伴う社内コスト

連携ツールの組み合わせが必要



- ・ツール選定のためのコスト
- ・連携実現のためのコスト

ERPを自社ビジネスにフィットさせ、事業を推進していくためには
ERPシステム改善に伴う問題までも考慮した改善施策を行うべき

intra-martのERP拡張基盤が課題を根本から解決できる理由

ERPが抱える課題を根本的に解決するのがintra-martを用いたERP拡張基盤です。

日々変化し続けるビジネス環境やユーザーのニーズに対応し続けるためには、必要な機能をスピーディーかつ低コストで実現させる必要があります。intra-martを用いたERP拡張基盤は、これらの要望に応えることができます。

intra-martで根本的な解決が可能な3つの理由

オールインワンで
カスタマイズできる



UI設計用ツール、データ連携用ツール
など個別の選定や購入が不要。

ローコード開発で
アプリケーションを構築できる



自社のビジネスに合わせたERPシステムをスピー
ディーに構築し、開発コストを削減できる。

CPU数によるライセンス課金で
コストの見通しが立ちやすい



ユーザー数によるコストの制約がないため
ERPの活用・改善の見通しが立てやすい。

POINT!

企業にとって価値の高いERPシステムを継続的に活用できる

intra-martのERP拡張基盤は企業を強力にサポートします

ERPの導入効果を最大化する3つのポイント

ERP拡張基盤により実際の業務とERP製品のギャップを埋めることで、ERP利用の効果は大きく高まります。

ERPとERP拡張基盤の導入を成功させ、継続的に活用していくためには、以下のポイントを押さえながら進めることが大切です。

01



業務プロセスを明確化

ビジネスプロセスの「あるべき姿」を明確化し、それを実現するERP拡張基盤を設計する。



ビジネスの実態にマッチした
ERPの活用に繋がる

02



部門や担当者へのヒアリング

俯瞰的視点からの検討だけでなく、実際にERPを操作・閲覧するメンバーの意見も取り入れる。



実用性が高く、業務を加速させる
ITシステムを実現

03



開発事業者との連携

自社が求めるERP拡張の要件を正確に伝え、開発事業者と円滑な双向コミュニケーションを行う。



システムの専門家目線での提案なども受けつつ、真に役立つERP拡張基盤を実現

自社に合わせたERPの継続的な活用方法を検討し、ERPの導入効果を最大化する仕組みを実現

「intra-mart」導入事例

株式会社日本触媒様

導入前の課題



ERP刷新に際したERP拡張基盤の整備

- 刷新される基盤システムのフロントソリューションを網羅的に計画する
- ワークフロー機能の強化、経費・旅費精算機能の整備

intra-mart導入理由



- 日本企業特有の組織構造や仕組みに柔軟に対応できるため
- intra-martの充実したローコードツールにより、将来的な内製化が見込めたため

intra-mart導入後の成果



既存システムから施行したワークフローについて
ユーザからの問い合わせが**半数以下**に



旅費・経費精算の事務処理にかかる時間が
大幅に削減された。

三菱マテリアル株式会社様

導入前の課題



既存システムとの連携と業務のシステム化

- 既に稼働している経理・会計領域の基盤システムとデータ連携しやすいシステムを導入したい
- 紙面でのワークフローなど、アナログな業務によって不要な金銭的、作業上のコストが発生していた

intra-mart導入理由



- 経理・会計領域の基盤システムとの連携実績が豊富で、既存システムとのデータ連携についても技術面、性能面で優れていたため
- CPU単位での課金体系であるため、コストを低く抑えることができたから

intra-mart導入後の成果



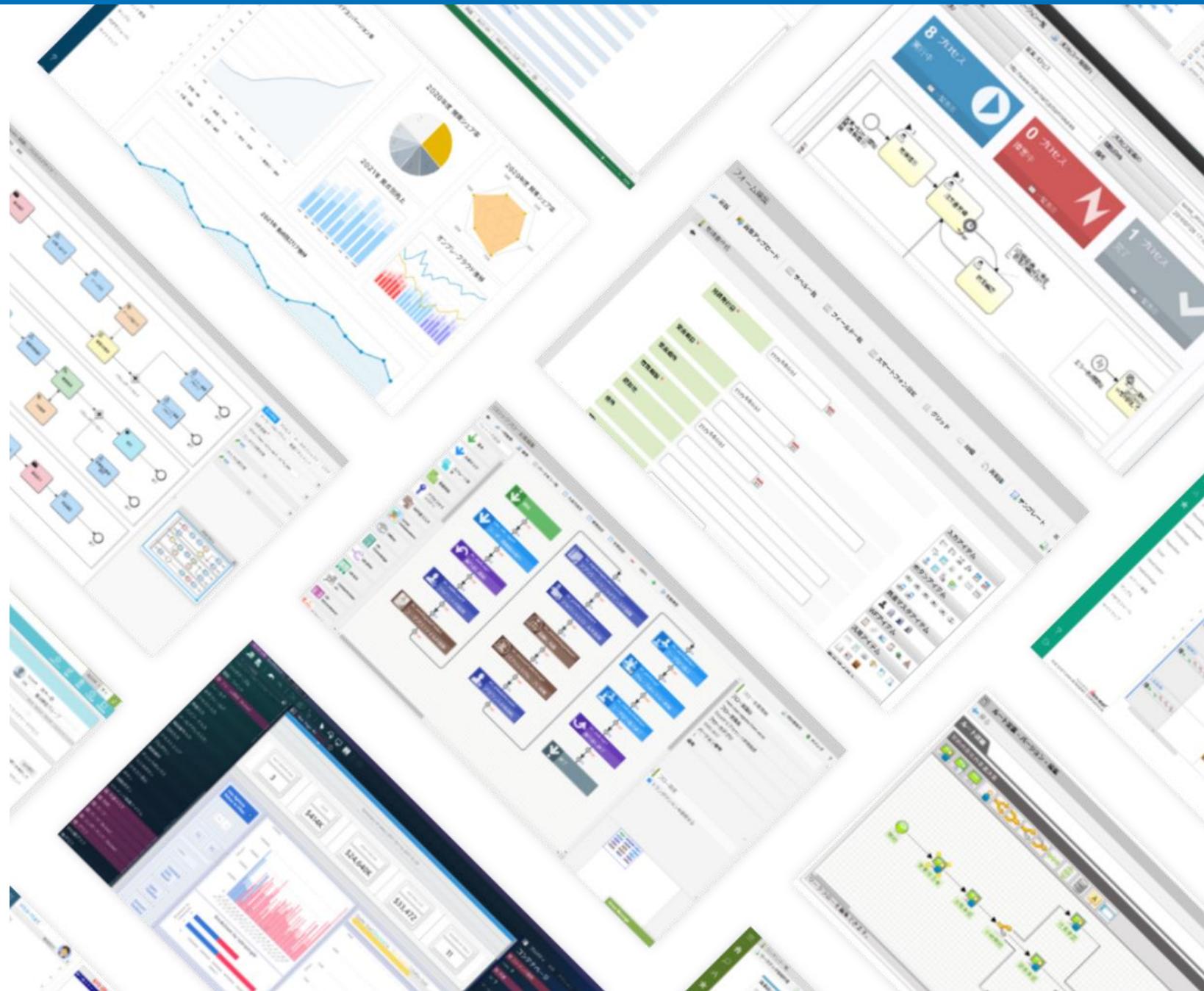
1か月で**14万件**にのぼる申請・承認タスクの
ペーパーレス化を実現



intra-martでのシステム連携により、既存のビジネスロジックを活かした開発を行い、開発期間とコストが抑えられた。



サービス紹介



コンセプト



企業独自の価値をデジタル技術で素早く向上させ、 ビジネスモデルの変革を推進

人々がそれぞれの個性を持つように、企業にも独自の個性や価値が存在します。過去、企業は基幹システムの導入などのIT投資で全体最適化を追求してきましたが、DXの観点からは、各企業の得意分野や最適解を持つことが明らかになっており、企業独自の価値を向上させるためのデジタル技術の活用が必要になっています。

そこで近年、デジタル技術の活用をスピーディーに進めるため、DX人材を育成し、AIやローコードなどの先進技術を駆使した素早い内製開発でデジタル投資の強化を検討する企業が増えています。

このような背景から、イントラマートは先進的なデジタル技術の活用によるエンタープライズアプリケーション開発をサポートするプラットフォームや、SaaS、コンサルティング、教育支援、システム構築などの幅広いサービスを提供しています。これにより、従業員独自のアイデアを手軽にデジタル価値へと昇華させ、顧客や従業員の満足度向上も伴ったビジネスモデルの変革を迅速に推進できます。

イントラマートは、デジタル技術を活用して企業独自の価値を一層際立たせ、それらが連携し共創しながら未来に向けた新たな価値を創出できる多様な社会の実現を目指しています。



エンタープライズ・ローコードプラットフォーム intra-mart Accel Platform

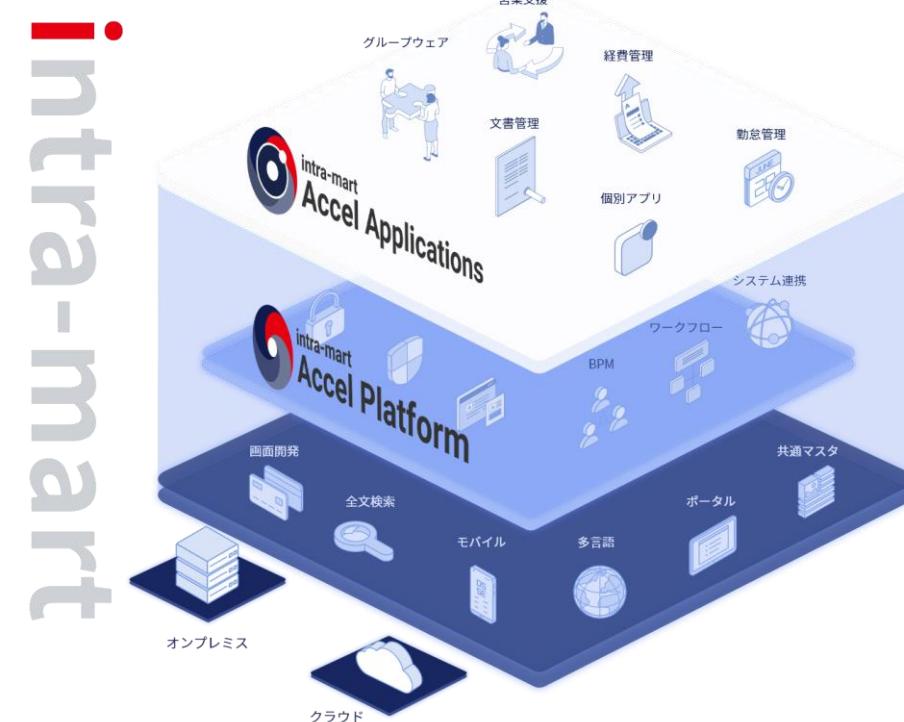
デジタル業務改革、もっと手軽に
エンタープライズ・ローコードプラットフォームで実現

intra-martとは？

企業の成長には、効率的な業務プロセスが欠かせません。基幹システムの導入により、SoR(System of Record)領域での業務効率化は進みましたが、実際の現場ではサイロ型のシステムで業務が分断され非効率なままで、従業員の満足度も上がりません。

しかし、一般的なローコードツールでは、システム開発・運用で業務効率化を実現しようとしても、企業全体での活用には物足りなさを感じることがあります。また、全体最適の業務改革は複数の他部門も関与するため、進めるのが難しい側面もあります。

イントラマートが提供する「intra-mart Accel Platform」は業務の効率化をスピーディーに実現可能なエンタープライズ・ローコードプラットフォームであり、全体最適化されたシステムの開発・運用が可能です。



参考

さらに詳細を知りたい方は以下サイトをご覧ください



製品一覧

<https://www.intra-mart.jp/products/>

intra-martの製品・サービスの詳細をご確認いただけます。



導入事例

<https://www.intra-mart.jp/case-study/>

intra-martをご利用いただいているお客様の導入事例をご紹介しています。



セミナー・イベント

<https://www.intra-mart.jp/seminar/>

製品の紹介や事例、業務課題の解決方法など、オンラインセミナーをご視聴いただけます。



株式会社NTTデータ イントラマート
www.intra-mart.jp

お問い合わせフォーム:<https://www.intra-mart.jp/inquiry.html>

E-Mail:contact@intra-mart.jp

- 掲載内容は2024年9月現在のものです。
- 各製品・サービスの仕様、デザインなどは、改良のため予告なく一部変更することがあります。
- 記載の会社名・製品名などは、弊社および各社の商標または登録商標です。